

入札監理小委員会における審議の結果報告

(独) 日本芸術文化振興会情報システムの総括運用管理支援業務

(独) 日本芸術文化振興会情報システムの総括運用管理支援業務については、公共サービス改革基本方針(別表)において、平成 28 年 4 月から民間競争入札による業務を実施することとされている。

当該民間競争入札実施要項(案)を入札監理小委員会において審議したので、その結果(主な論点と対応)を以下のとおり報告する。

1. 入札参加資格に係る認定について

【論点】

入札参加資格に関して、「A」・「B」等級としていますが、C等級についても認めるとともに、営業品目の枠を広げることを検討すること。

【対応】(資料 4-2、通し番号 PP9、PP11)

営業品目「ソフトウェア開発」を削除、「C」等級を追加し入札参加資格を緩和した。

2. 従来の実施状況に関する情報の開示について

【論点】

アプリケーション保守業務の情報開示の記載がないので、アプリケーション保守の対応状況を記載すること。

【対応】(資料 4-2、PP64)

「従来の実施状況に関する開示」にアプリケーション保守の対応状況の情報を追記した。

3. 意見招請及びパブリックコメントによる対応について

- ・平成 27 年 8 月 19 日(水)から 9 月 8 日(火)まで実施した意見招請において、2 者から 15 件の意見が寄せられた。
- ・質問内容は「仕様の明確化に関する要望や確認」が大半を占め、意見を踏まえ計 4 件の修正を行った。
- ・主な変更点として、職員等からの質問から回答までの時間の計測方法を明確化した。(資料 4-2、PP6 から PP7)

以上